

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875200996		
法人名	特定非営利法人 日本地域福祉協会		
事業所名	街かどケアホーム さやか		
所在地	神戸市西区和井取3番12号		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町村受理日	2013年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp/kai_gosi_p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	平成24年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

タイムスケジュール的なものを作らず、ご利用者が自由に生活できる環境を作っている。ご利用者が望まれた事をできるだけその場で提供出来る様にしている。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人の運営理念をもとに、利用者個々の生活スタイルで日々を過ごす、利用者主体の生活が支援されている。食事、入浴の時間も特に決めず、各自のペースで過ごしている。利用者の居室は、部屋ではなく、自宅であり、隣の居室は隣の家の住人としてご近所付き合いをしていると、職員も捉えて対応に配慮がなされている。事業所内には足湯の部屋やカラオケや映画上映専用の部屋もあり、ウナギつかみや花火大会も盛大に行われる等季節の行事も変化に富んでいる。最近地域の民生委員と連絡が取れた(事業所では以前から行政等へ問い合わせしていた)。事業所内の生活は充実しているが、地域との関わりがなかなか持たず活動にどうしても制限があったが、今後は民生委員を通して地域との連携が密になり、活動の幅が広がることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に置き、日常生活において利用者が主体となれるよう努めている	ホームは利用者の生活する場で、職員は利用者の思いを尊重し、共に暮らしていくことを理念としている。一日のスケジュールは作らず、個別対応を行っている。対応等に困ったときは、理念に戻り職員間で検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育所との交流や、中学でのトライやるウィーク受入れ等、徐々に関わりが出来るようある	自治会はなく、地域の情報は、家族、職員、あんすこやかセンター(地域包括)から貰い、子どもの夏祭りや運動会に参加、喫茶店や買い物にも日常的に出かけている。一人で散歩に行く利用者は地域の方と顔見知りになり、職員も挨拶する等の交流もある。事業所前の休憩コーナーは地域住民や子どもたちの憩いの場ともなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を定期的実施し地域との理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し利用者の様子・事業所の状況など報告し意見交換を行っている	あんすこセンター、家族、利用者、他グループホーム、職員で定期的開催している。利用者の生活の様子を通して、事業所の可能な対応等も伝え、あんすこからの情報、今後の予定などを話し合っている。地域住民の参加はなかったが、やっと地域の民生委員の方がわかり、今後は参加してもらう予定である。	民生委員との連携を図り、今後、地域とのつきあいが深まることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生保ご利用者に対してケースワーカーと連携をする等、取り組んでいる	生活保護受給者が数名おられ、区の担当者と連絡を取り合っている。グループホーム連絡会にはあんすこセンターが出席し、市の担当者の出席はなく、なかなか顔のみえる関係には至っていない。	市との連携は事業所の働きかけだけではむずかしいところがある。他のグループホームとも現状についての、意見交換をされてはいかがか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時に研修を行い玄関も施錠せず日常の関わりの中で職員間でも協力し合いケアに取り組んでいる	施錠はせず、出かける人に対しては、敷地を出るところまで待って職員は声かけし、一緒に出掛けたりしている。鍵をかけないリスクについて、入居時及び日々の様子の報告時に家族に伝えている。職員間のチームワークと声かけの工夫で、拘束をしないケアに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時、及び定期的に研修を実施し職員に意識を徹底している	新聞記事も活用して研修を行い、介護の楽しさ、職員の自主性、利用者の尊重の思いから虐待防止につなげている。通報の義務、通報窓口も伝えている。職員間の連携とシフトの調整や年間7日間の休みを自分都合で取る等ストレスが軽減できる環境となっている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を利用されている方がいる。利用者に関わりを持つ中で知識を得ている。必要に応じて家族様等活用できるように説明している	成年後見制度及び日常生活自立支援事業の活用者がおられ、職員は日常業務を通して、制度を理解している。家族に対して、必要に応じて制度説明をしているが入居契約時には行っていない。	認知症の方の権利擁護のため、制度理解は重要と考えるので、職員に対して事例を使う等した研修を計画されてはどうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に入居のご案内を渡し希望あれば見学・体験も実施している。契約時時間を掛け説明し理解・納得を得ている	契約前に案内を送りあらかじめ情報を伝えた上で、契約時は十分時間をかけて説明している。事業所の理念やリスクについても詳しく説明している。見学や体験(1週間まで)も可能で、安心、納得を得て入居してもらうよう取り組んでいる。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に不満な点等をお聞きし日々ご利用者にも意見を伺っている。又、家族様に合わせてFAX・メール・電話などで日々の連絡や報告をさせて頂いている	利用者の思いや訴えを大切に、どう解決するか対応を記録し職員間で検討している。家族に対しては、個々に近況報告し、希望等を聞いている。外へ一緒に行ってほしい、部屋の清掃、片付けをしてほしい等の個別の要望にはその都度対応している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や全体会議など発言や提案しやすい場を設け日々の関わりに反映させている	職員が利用者との対話の中からの気づきを提案し、喫茶店や買い物に行く等の支援につなげている。法人の4事業所の職員が集まって敬老会のイベントを話し合い、家族と利用者の写真をヘアメークさんと呼んで撮る等の実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を事業所で設置し、職員が各自目標に対して達成できる様に意識を持って努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対して、新人研修を実施し又、OJTにより各自の能力向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の居宅支援事業者と連携し交流している		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の思いを傾聴し、受容の姿勢を持ってニーズに応えるようにしている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の状況や意見を把握し希望に沿ったサービスが出来るように努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最も必要としている支援を確認し、可能なサービスを提供している		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者本位の考えで、ご利用者の敬意の念と、教えて頂くという気持ちで対応している		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との意見交換を通じ、ご利用者を共に支えていく支援を行っている		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所とのつながりが続いているよう支援に努めている	利用者の誕生日に、家族から情報を得て、馴染みの喫茶店で一緒に誕生会をした。利用者はとても喜ばれた。美容院や地元の洋品店、甲子園、ひいきの歌手のコンサートにも行く等馴染みの関係継続を支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに気のあった方同士が会話出来たり、関わりを持てるように対処している		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節の挨拶分等を郵送している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に希望や意向をお聞きし、ご本人の意思に沿うことが出来るように努めている	入居時及び日々の関わりの中から、思いや意向を聞き取っている。把握できた内容を記録して介護計画に反映させるようにしている。把握困難な人は、それぞれの場面での表情や仕草から読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規ご利用時にアセスメントを行い、ご本人の情報を把握する様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録、送り表、特記事項表を活用し、現状を把握できる様にしている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当を決め全職員で話し合い毎月のケース会議でのモニタリングによってご本人に沿った介護計画を作成している	全職員で 毎月のモニタリングを行い、再アセスメントし職員がまとめ、計画作成者がそれを元に、利用者、家族の意見を参考にして計画を立てている。見直しは原則半年。サービスを受ける利用者の自己決定を尊重した計画を意識して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録や送り表に記入し、介護計画の見直しに活かす様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス概念にとらわれない方法を必要に応じて取り入れている		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育所や中学校との交流行事を活用し、地域資源との協働を図っている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある方はご利用頂き、その他は協力医の受診往診を利用している	入居前のかかりつけ医を継続しながら、協力病院の医師の往診も受けている方がいる。一方、協力病院の医師の方が往診時等で関わる機会も多く、家族や本人にとっても利便性や安心感も高い為、殆どの方がかかりつけ医を協力病院の医師としている。受診時は基本、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調変化は非常勤の看護師に報告の上対応している		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者入院の際は職員が自発的にお見舞いに伺い、ご利用者の不安感をなくすと共に、病院と連絡を取り連携を強めている	入院の環境の変化から認知症が進行しない様、毎日お見舞いに行き会話を忘れないように支援している。早期退院の受け入れ態勢として、口から食事が出来る事が条件となるが、その為にソフト食等の嚥下し易い食事を準備する等の対策がなされている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所のできる事・できないことを説明している。終末期の対応は利用者・家族様の意向を確認し全職員で検討し共有し支援に取り組んでいる	契約時や実際の看取り時にも家族や本人に十分説明して、事業所の出来る事と出来ない事を了承してもらってから実施している。その人や家族に心残りが無い介護を目標としている。職員も看取りの実践において、自然体で利用者向き合い、「最後まで側で寄り添いたい」気持ちを共感できた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習や保健所の講習を受講している		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	西区消防署立会いの下で、定期的に避難訓練を実施している	火災や地震を想定した訓練を年2回実施。日中・夜間を想定して利用者と共にこなしている。災害時に迅速に建物外へ避難出来る様、訓練時には女性職員でも利用者を背負って非常階段を下るための実技訓練を実施している。地域との協力体制は今後、民生委員等と連携を図り、協力して計画を立てて行く準備がある。	

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し法人理念に基づき個別ケアの対応している	日々の係わりや会話の中から、その人のこれまでの歴史や希望を把握して、様々な事に参加出来る様、個別ケアを実施している。高齢者の経験と知識に対して常に尊敬と敬意の念をもって接するため、日頃から理念に立ち返り一人一人を尊重する声かけを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者本位の立場で自己決定の支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定を設定せず、ご利用者が各自のペースで生活できる様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が好きな衣服を共に買いに行ったり、行きつけの美容院へ同行して利している。施設でも毎月理容サービスを提供している		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日その場で食事メニューを決め、ご利用者と共に調理をしたり片付けをしている。希望がある時は、外食や仕出し等も活用している	利用者が自発的に献立を一緒に考えたり、下膳や洗物に協力している。食事時間や席に規定が無く、好きな時間に好きな席で食事が楽しめる様、自由な食事環境を提供している。利用者は自ら自家栽培した野菜を収穫し、提供する楽しみを含めて食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の希望を優先しつつ、栄養バランスを考えた食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状況に合わせた口腔ケアを実施している		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者毎の排泄パターンを把握し個別の対応を心掛け声掛けや介助を行っているが自立に向けての支援も行っている	各個人の排泄状況や回数等は記入表から把握して、個別に対応している。排泄介助時は、グローブや清拭タオル等をオシャレなポーチ等に入れて羞恥心に配慮した誘導方法を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す為に繊維質の多い物や乳製品を提供し、又、可能な範囲で身体を動かして頂いている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中、夜間を通じて希望の時間に入浴が可能な様に対応している	昼夜問わず、本人が心地よく入浴出来る様、時間や週のリズムの規定を設けていない。利用者の「広いお風呂を楽しみたい」という希望に、同法人のデイサービスの大浴場を月一回解放して、大浴場での広々とした入浴が楽しまれている。足湯専用の部屋もあり、特に冬場は利用者の憩いの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	通説的な生活パターンに縛られる事なく、ご利用者毎の生活習慣に沿った休息や睡眠の場を提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用に関して職員が理解し、常に服薬に関しての最新の情報を職員間で共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人ひとりの生活歴に合わせた楽しみ事や気分転換の場を職員が提供している		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が同行してドライブや買い物の外出支援、又、ご家族との食事外出等の支援を実施している	演歌歌手のコンサートや、甲子園での野球観戦等、日常の会話や家族からの情報をもとに、個人の興味や好みが続いて来る個別支援がなされている。家族と外出・外泊をされている方もある。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に対して、理解のあるご利用者に対しては一定の金銭をご本人に管理して使ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望があれば、希望される連絡先への電話や手紙のやり取りをして頂いている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に清掃し美観を保つ事に心掛け、ご利用者のニーズに合わせてレイアウトの変更も実施している	毎週、利用者が自発的に生花を玄関やフロア内に飾り、季節感が感じられる。日々の穏やかな生活が、生活場面を撮った写真からうかがえる。フロア内に、集団からはなれ「ほっと一息」出来る空間も設けられ、テーブル等も利用者のニーズを取り入れて安全且つ快適に配置されている。ネコが飼われており、利用者への癒しへと繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファをランダムに配置し、ご利用者がその時の気分に合わせて使用して頂ける様心掛けている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、ご利用者が永年使い慣れた家具や服を持ちこんで頂き、自宅で過ごされるのと同じ環境に近づけるように努めている	長年、自宅で使い慣れたものを、居室に飾る事で、落ち着いたプライベートの時間を過ごす事が出来ている。その人らしい「生活の匂い」が特徴として出る様に環境面の支援がなされている。お孫さんに部屋のコーディネートを頼み、タレントのポスターが貼られ、「お孫さんの部屋」の様なユニークな居室になっている方もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーの構造にてご利用者の動線確保し、安全かつ自由に移動できる環境作りをしている		